

琉球大学学術リポジトリ

沖縄県産青果物の首都圏での販売状況と市況情報の 入手

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2013-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新里, 良章, SHINZATO, Yoshiaki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016311

沖縄県産青果物の首都圏での販売状況と市況情報の入手

新里良章

(沖縄県立農業大学校)

Yoshiaki SHINZATO: Sales performance of the fruit and vegetables produced in Okinawa prefecture in the metropolitan area, and gathering informations concerning market condition of fruit and vegetables.

1. はじめに

沖縄県産農産物の県外出荷は約70～80%が関東市場への出荷である。首都圏の市況を分析することで、沖縄県産農産物の大まかな評価、価格や市場での地位などの情報整理が可能である。9ヶ所ある東京都中央卸売市場の市場データと市場関係者などからの聞き取りにより沖縄県産農産物の市場での販売状況をまとめた。

ネット上では各首都圏卸売会社、東京都中央卸売市場などの市況情報が有料、無料で閲覧可能である。沖縄県産農産物の情報に関して入手可能なホームページを紹介する。これらは一部であって、ネットを探していけば、閲覧者のニーズにあった多くの有用なホームページを見つけることができる。

2. 首都圏における主要な沖縄県産青果物の入荷状況

(1) ゴーヤー

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

2009年の沖縄県産の入荷量は1,063トンで、前年対比94%で6ポイント低下した。単価は410円/kgで、前年度対比94%で6ポイント下落した。金額は435,600千円で、前年対比88%で12ポイント低下した(図1)。

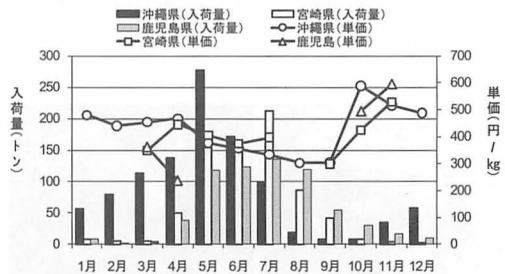


図1. 2009年東京都中央卸売市場ゴーヤー 沖縄県、宮崎県及び鹿児島県の入荷量と単価。

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

首都圏への全入荷量は5年間ほぼ変わらず、4,000トン前後で、これが入荷量の目安といえる。産地は沖縄県、宮崎県、鹿児島県及び長崎県、群馬県や茨城県となっている。夏場は各産地から入荷される。宮崎県産、鹿児島県産とも年間平均単価350～360円/kg前後で取引されている。宮崎県産、鹿児島県産のゴーヤーは形やつやなど沖縄県産と見栄えは変わらなくなってきた(写真1左)。

② 沖縄県産ゴーヤーの首都圏市場での位置

市場の入荷量の占有率は27%程度である。宮崎県と鹿児島県産がともに18%と続く。12月から4月まで沖縄県産が主流である。1月から4月までの沖縄県産の単価はここ数年、下落傾向

にあり450円/kg前後で取引されているが、数量、金額及び単価ともに市場では1位の位置にある。

③ 評価・課題（クレーム）など

沖縄県産は色のりがよく、苦味も少なく味が良いという評価である。過熟、腐れおよびカビ果が以前よりは少なくなったがいまだに事故果が入荷される（写真1右）。「ゴーヤーの日」5月8日は各スーパーで沖縄県産よりも、鹿児島県産などのゴーヤーが利用されたりする。「ゴーヤーの日」を首都圏で、沖縄県産品でも盛り返す必要がある。



写真1. 鹿児島県産ゴーヤーと沖縄県産の事故果実。

ウ 沖縄県産ゴーヤーの販売の推移

単価、金額は景気の動向で低下傾向であるが、数量は1,000トン程度を維持している（表1）。

表1. 沖縄県産ゴーヤーの販売状況。

単位：トン、円/kg、百万円

	2006年	2007年	2008年	2009年
数量	1,034	1,025	1,136	1,063
単価	509	470	436	410
金額	526	482	495	436

(2) インゲン

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

2009年の沖縄県産は1,040トンで、前年対比117%で17ポイント上昇した。単価は935円/kgで、前年対比94%と6ポイント低下している。金額は971,996千円で、対前年比121%と21ポイント上昇した（図2）。

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

インゲンに関して消費者の国産志向は強い。

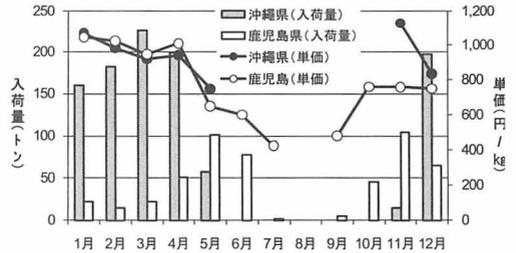


図2. 2009年東京都中央卸売市場インゲン 沖縄県及び鹿児島県の入荷量と単価。

11月で長崎県産、千葉県産などがほぼ終了し12月の産地は沖縄県産、鹿児島県産およびオマーン産に移行する。鹿児島県産は1月以降も量販店には出荷が続き、競合するので生産動向を注視する必要がある。

② 沖縄県産インゲンの首都圏市場での位置

年間の出荷量としては福島県に次いで2位で、金額も2位である。単価は低下傾向である。市場関係者からは景気の低迷の中、それでも健闘しているとの声がある。1月から4月までは沖縄県産が主体でオマーン産と競合するが外国産の単価は沖縄県産の65%程度である。

③ 評価・課題（クレーム）など

12～2月の低温や寡日照の影響で不稔果やしなび果が多くでる。そのため、2010年は2月の出荷が大幅に低下している。菌核病の荷物がまれに入荷されるが、昨年度は2件で病害混入は少なくなっている（写真2）。



写真2. 不稔果としなびの発生。

ウ 沖縄県産インゲンの販売の推移

単価は景気の動向で低下傾向であるが、数量、金額とも増加している（表2）。

表2. 沖縄県産インゲンの販売状況.

単位：トン、円/kg, 百万円

	2006年	2007年	2008年	2009年
数量	1,010	977	1,043	1,302
単価	372	407	459	405
金額	375	398	479	527

(3) カボチャ

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

沖縄県産の数量は近年1,000トンで推移しているが2009年は1,302トンと大幅に増えた。前年対比125%で25ポイント上昇した。単価は405円/kgで、前年対比88%で12ポイント下落した。金額は524,285千円で、前年対比110%で10ポイント上昇した。（図3）

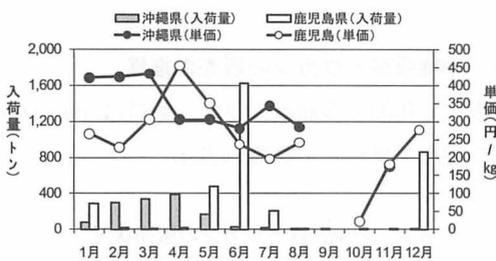


図3. 2009年東京都中央卸売市場カボチャ 沖縄県及び鹿児島県の入荷量と単価.

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

外国も含めて1月から12月まで月間3,000トンから4,000トンの入荷がある。カボチャは海外からの輸送に耐える品目で40%程度が輸入である。産地は北海道、鹿児島県、ニュージーランド、メキシコおよび沖縄県となっている。首都圏の入荷量は5年間ほぼ変わらず、40,000トン程度で、これが入荷の目安である。

② 沖縄県産カボチャの首都圏市場での位置

1月から4月までの沖縄県産の単価は400～430円/kgと高値で取引されている。年間平均では沖縄県産は400円/kg程度、外国産は100円～130円/kg程度である。国産では沖縄県産は2～4月まで入荷量は首位を占めている。市場の占有率は毎年3%と低いが高単価を反映して、金額は5位の位置にある。

③ 評価・課題（クレーム）など

南風原町津嘉山産はブランド産地として定着して、市場評価が高い。完熟であること、大玉であること、着色がよくキズ果がないなど品質検査が徹底されている。地域により規格が揃っていないとの市場の評価がある。しかし近年は宮古島産と南風原町産などのカボチャの評価は高くなっている。カボチャの腐れの報告が毎年発生している（写真3）。

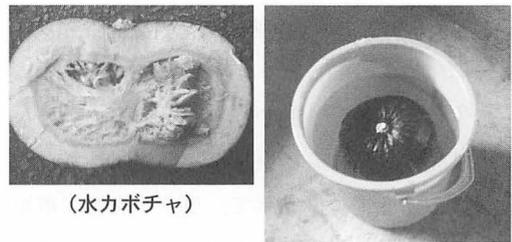


写真3. かぼちゃの腐れ（左：通称、水カボチャ）。重量があってバケツで沈むカボチャが水かぼちゃ。

ウ 沖縄県産カボチャの販売の推移

過去4年間で金額は伸びて、数量は1,000トン程度を維持している（表3）。

表3. 沖縄県産カボチャの販売状況.

単位：トン、円/kg, 百万円

	2006年	2007年	2008年	2009年
数量	1,010	977	1,043	1,302
単価	372	407	459	405
金額	375	398	479	527

(4) トウガン

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

沖縄県産の東京都中央卸売市場への入荷数量は500~600トンで推移しており2009年は506トンで、前年対比79%で21ポイント減少した。単価は186円/kgで、前年対比93%で7ポイント下落した。金額は94,303千円で、前年対比74%で26ポイント減少した(図4)。

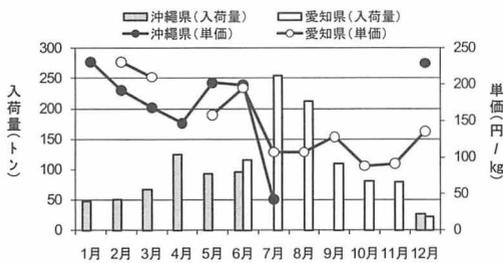


図4. 2009年東京都中央卸売市場トウガン
沖縄県及び鹿児島県の入荷量と単価。

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

全体の入荷量は2,600~2,900トンで、主要な産地は愛知県、神奈川県及び沖縄県である。入荷量の多い産地は愛知県で、東京中央卸売市場では入荷数量が一位で占有率が1/3程度ある。神奈川県の占有率は15%程度で3位の入荷量である。

② 沖縄県産トウガンの首都圏市場での位置

沖縄県産は1~5月までの入荷が中心になる。この時期は他県産の入荷がほとんどなく沖縄県産のみの入荷である。沖縄県産の入荷量の占有率は20%程度で2位または3位であるが、金額では1位または2位を愛知県または沖縄県が占める。1月から5月までの沖縄県産の単価は150~230円/kgで取引されている。年間平均では沖縄県産は180円/kg程度、愛知県産は120円/kg程度で夏秋期の入荷である。

③ 評価・課題(クレーム)など

意外と首都圏の人たちは食べ方を知らない。小さい子供へ食べさせるメニューなど考えて消費拡大をねらう必要がある。5,6月の沖縄県産は傷みとの戦いである。加工(外・中食)が非常に嫌う。早採りは「スポンジ果」が出やすい。昨年度は3月の中旬からスポンジ果の発生があった。小玉傾向と早採りの影響や本土市場の売場での低温放置と言われるが、詳細な調査が必要である(写真4)。

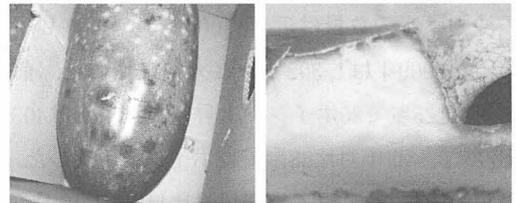


写真4. トウガンの腐敗。

右：外からは表皮がぶかぶかした感じ
左：表皮の下はスポンジ状

ウ 沖縄県産トウガンの販売の推移

過去4年間で金額は伸びて、数量は500~600トン程度で推移している(表4)。

表4. 沖縄県産トウガンの販売状況。

	単位：トン、円/kg、百万円			
	2006年	2007年	2008年	2009年
数量	517	537	637	506
単価	168	206	200	186
金額	87	111	127	94

(5) オクラ

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

2009年は652トンで、前年対比104%で4ポイント増加した。単価は676円/kgで、前年対比96%で4ポイント下落した。金額は440,589千円で、前年度とほぼ同程度の金額であった(図5)。

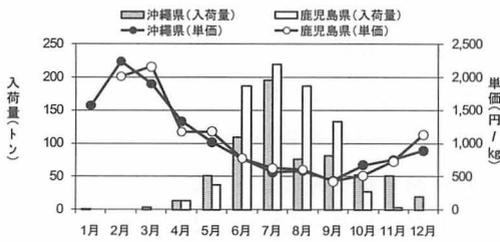


図5. 2009年東京都中央卸売市場オクラ
沖縄県及び鹿児島県の入荷量と単価。

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

東京都中央卸売市場全体の入荷量は2,700～3,000トンで、主要な国内産地は鹿児島県、高知県及び沖縄県で外国産としてはフィリピン、タイである。沖縄県産出荷時期は5～12月で競合産地は鹿児島県、高知県であるが、12月にはフィリピン産、タイ産と競合する。入荷量の多い産地は鹿児島県で、東京都中央卸売市場では入荷数量が1位で占有率が30%程度ある。高知県の占有率は20%程度で沖縄県に次いで3番目の入荷量である。フィリピン産の入荷量は毎年400～600トン程度で、タイ産は100トン以上入荷される。

② 沖縄県産オクラの首都圏市場での位置

沖縄県産は5～12月の入荷が中心になる。沖縄県産の入荷量の占有率は20%程度で鹿児島県に次いで2位である。金額でも2位の位置にありここ5年間で5位から2位まで上がっている。5月から12月までの沖縄県産の単価は500～1,000円/kgまで推移する。年間平均では沖縄県産は700円/kg前後で、鹿児島県産も沖縄県産と同程度の単価の推移である。

③ 評価・課題（クレーム）など

群馬県産などが減少傾向で、沖縄産は重宝されている。早出しについての市場の考えは、2～4月はフィリピン産とタイ産しか市場には出

回っていないが、トンネル早出し栽培で沖縄県からこの時期出荷可能になれば、話題性が大きく5月以降に沖縄県産が売りやすくなるのである。是非早出し栽培の確立に取り組んでほしい。2008年に宮古島産でムレが発生していた。2009年の事故果はかなり少なくなった（写真5）。

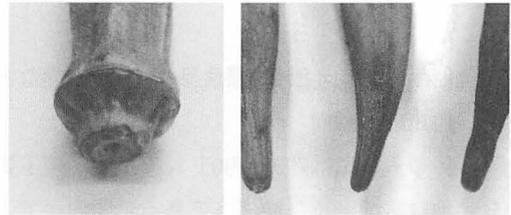


写真5. オクラのヘタの褐変やムレ（低温障害）。

ウ 沖縄県産オクラの販売の推移

過去5年間で数量は2倍以上に伸びた。単価も700円/kgと高値で取引されており、沖縄県産野菜では主力品目になった（表5）。

表5. 沖縄県産オクラの販売状況。

	単位：トン、円/kg、百万円				
	2005年	06年	07年	08年	09年
数量	267	317	316	628	652
単価	588	748	782	704	676
金額	157	237	247	443	441

(6) マンゴー

ア 2009年東京都中央卸売市場実績

沖縄県産の東京都中央卸売市場への入荷数量は100～200トンで推移しており2009年は168トンで、前年対比141%で41ポイント増加した。単価は1,582円/kgで、前年対比76%で24ポイント下落した。金額は265,131千円で、前年対比106%で6ポイント増加した（図6）。

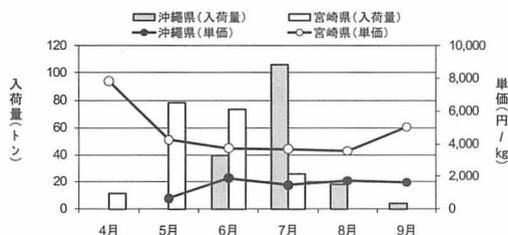


図6. 2009年東京都中央卸売市場マンゴー
沖縄県及び宮崎県産の入荷量と単価。

イ 他産地の動向と沖縄県産品の評価と課題など

① 他産地の動向

全体の入荷量は700～800トンで、国内の主要な産地は宮崎県及び沖縄県である。国内産で入荷量の多い産地は宮崎県である。東京都中央卸売市場では入荷量は1位で、占有率が1/4程度あり、沖縄県産より多い。宮崎県産の入荷は早く、3月頃から始まり4月から本格的に量販や高級フルーツ店で販売されている。

外国からの輸入で多いのは、フィリピン産、メキシコ産、タイ産、台湾産及びオーストラリア産である。最近、量販店ではオーストラリア産、ブラジル産マンゴーも目立ち始めている国内産は増加傾向であるが、外国産は減少傾向が続いている。2004年の外国産マンゴーの入荷量は550トンで、東京都中央卸売市場の占有率は68%であった。2009年は入荷量が380トン、占有率が50%に低下した。台湾産は入荷量が伸びており、品種もアーウィンで国外の競合産地として今後注視する必要がある。

② 沖縄県産マンゴーの首都圏市場での位置

沖縄県産は6～8月の入荷が中心である。国内産マンゴーの産地はほぼ宮崎県と沖縄県である。沖縄県産の入荷量の占有率は20%程度で2位または3位であるが、金額では宮崎県に次いで2位の位置にある。沖縄県産マンゴーの単価は景気の影響で2009年は1,500円/kgと低迷したが、

通常1,700～2,000円/kg程度である。

③ 評価・課題（クレーム）など

タンソ病、軸腐れ病の発生が多く、沖縄県産マンゴーの評価を相当落としている。6月と7月に宮崎県産と競合してしまう。

宮崎県は加温・完熟で「太陽のタマゴ」としてブランドを確立しており、沖縄県産は高品質の宮崎県産に押され単価は伸び悩んでいる。先行販売している宮崎県と出荷規格、等階級表示や荷姿が違うので量販店、百貨店などが対応に苦慮している（写真6）。消費者でまだマンゴーを食べたことがない人が多い。安ければいいということではないが、パック詰めの販売で消費の底上げをしてほしい（市場関係者）。

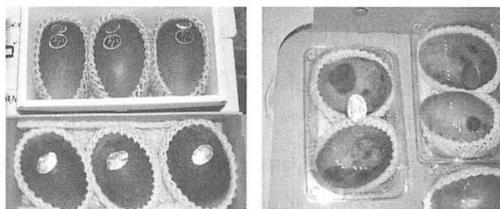


写真6. 宮崎県産マンゴー（太陽のタマゴ：左写真上）と沖縄県産（左写真下）及び沖縄県産マンゴーの病害果（右）

ウ 沖縄県産マンゴーの販売の推移

100トン程度を上下していたが、2009年は168トンと大幅に伸びた。沖縄県産の入荷量及び金額は増加傾向にあるが、景気低迷もあり果実、特に贈答用の果実は販売が難しくなっており、単価は2004年の90%程度に下落している（表6）。

表6. 沖縄県産マンゴーの販売状況。

	単位：トン、円/kg、百万円					
	04年	05年	06年	07年	08年	09年
数量	118	52	107	60	119	168
単価	1,738	2,742	1,969	3,169	2,090	1,582
金額	205	143	211	189	249	265

3. 各種ホームページ上の首都圏市況データ

(1) 出荷団体や生産者及関係機関でデータを入手する

東京都中央卸売市場の九つある市場別のデータは各市場に入っている卸売会社の平均数値である。県内の出荷団体や生産者は出荷する卸売会社がほぼ決まっているので卸売会社の入っている市場の価格を閲覧すれば、その出荷団体、生産者の価格がほぼ把握できる。例えば築地市場のゴーヤーの市況は東京シティ青果株式会社の市況である。データを加工することで普及指導や生産計画に役立てることができる。また、青果物情報センターの各月及び各旬のデータは年額15万円で自由に閲覧できる。農業関係機関各自で加入することをお勧めする。

(2) 消費者や量販店の情報を入手するには

市況データはインターネットからパソコンで入手できるが、消費地の声や売り方、売れ方などの情報の入手は現場での情報収集が必要である。県内の出荷団体は首都圏、関西などの卸売会社の担当者と会議、意見交換会などを通じて情報や意見を頻繁に入手している。しかし、卸売・仲卸会社は量販店や百貨店という彼らの「お客様」と、出荷団体との直接的な接触は敬遠する傾向がある。スーパーの売り方、消費者の意見などは情報がつかみにくく、出荷団体の在京事務所や流通政策課東京駐在による、卸売会社からの間接的な情報入手とスーパーの売り場を歩いての不定期な情報収集となっている。宮崎県や熊本県などは量販店との連携事業を行っている。沖縄県も年間を通じて、量販店の担当者を現地に招き双方で研修や意見・情報交換会を行うなどの連携をとりながら、大消費地の情報が入手できるシステムを作っていく必要がある。

(3) 市況データなどの入手方法の実務

ア 青果物情報センター（有料：年間15万円）

年額150,000円で東京都中央卸売市場、9市場別（産地別、市場別、市場合計等）の青果物取扱実績情報が閲覧できる（図7）。毎旬のデータが翌日には掲載される。旬データであり早急な数量・価格の閲覧が必要な場合重宝する。東京都中央卸売市場9市場の旬別の詳細なデータの閲覧で首都圏の価格の動向が把握できる。

URL <http://info-seikabutu.jp/index.html>

イ 東京都中央卸売市場市況情報（無料）

日報、週報はおもな品目のみが掲載されている。データはCSVファイル形式でダウンロードできる。月・年別検索は充実しており、かなりの品目の花、野菜及び果実の市場別、産地別が掲載されており、「沖縄県産のドラセナ」や

県名	入荷量 t	価格 円	前年対比		入荷量 構成比 %	前年 構成比 %
			入荷量 %	価格 %		
レイシ（にがうり）						
長崎	17	466	62.9	163.2	34.4	31.1
鹿児島	8	499	30.0	152.8	15.2	28.8
茨城	6	331	87.0	131.5	12.3	8.1
宮崎	4	410	41.1	136.2	8.8	12.2
福岡	4	316	77.9	104.7	7.8	5.7
群馬	4	286	78.7	99.9	7.5	5.4
埼玉	2	426	190.2	123.3	3.8	1.1
佐賀	2	560	134.7	235.7	3.2	1.3
沖縄	2	575	83.3	112.7	3.1	2.1
千葉	1	466	129.7	128.1	2.1	0.9
栃木	1	409	309.7	167.0	1.5	0.3
長野	0	554	47.5	164.5	0.2	0.2
その他	0	541	3.3	274.2	0.2	2.8
総計	50	429	56.9	142.6	100.0	100.0

図7. 事例 平成20年10月上旬 インゲン、ゴーヤーの産地別数量、金額及び単価。（資料：東京都中央卸売市場の青果物取扱実績情報、旬報、産地別（野菜）サンプルより）

「宮崎県産マンゴー」などの市場での月別、年別数量、金額及び単価や市場占有率などエクセル等を利用すれば容易に集計できる。

①ホームページ

<http://www.shijou.metro.tokyo.jp/index.html>

②市場取引画面（図8）

<http://www.shijou.metro.tokyo.jp/torihiki/>

図8. 事例 「平成21年月別ニガウリ」入力画面.

③検索画面 (図9)

<http://www.shijou-tokei.metro.tokyo.jp/index.html>

産地		合計	平成21年1月	平成21年2月	平成21年3月
合計	数量	583,458	14,924	15,506	18,755
	金額	206,758,882	7,193,130	7,201,320	9,083,288
	平均価格	354	482	464	484
山形	数量	17	0	0	0
	金額	1,260	0	0	0
	平均価格	74	-	-	-
福島	数量	7,512	0	0	0
	金額	1,544,970	0	0	0

図9. 事例 築地市場でのゴーヤーの月別、産地別入荷数量、金額及び単価.

ウ 各卸売会社の市況と販売見通し

各卸売会社は当日市況や翌月の見通しを無料、有料で提供している。青果物を取り扱う会社は無料のサイトが多いので、当日のデータを必要とする場合は役立つサイトである。沖縄県産ではゴーヤー、インゲン、カボチャやマンゴーなど主要な青果物の当日市況、翌月の販売見通しなどが閲覧できる。

① 東京青果株式会社

大田市場に入る卸売会社で取扱高は全国一位で当日市況と翌月の見通しを掲載している。

1) ホームページ

<http://www.tokyo-seika.co.jp/index.html>

2) 果実、野菜の当日市況 (無料)

<http://www.tokyo-seika.co.jp/price06/index.html>

3) 翌月の果実、野菜販売見通し (無料で毎月27日～翌月17日頃まで公開)

<http://www.tokyo-seika.co.jp/business06/view.html>

② 東京シティ青果株式会社

当日市況と翌月の見通しを掲載している。

1) ホームページ

<http://www.city-seika.com/>

2) 果実、野菜当日の市況

<http://www.city-seika.com/condition/shikyoku.html>

3) 果実、野菜の翌月の販売見通し

<http://www.city-seika.com/prospect/prospect.html>

③ 横浜丸中青果株式会社

当日市況と翌月の見通しを掲載している。

1) ホームページ

<http://www.yokohama-marunaka.co.jp/index.html>

2) 果実、野菜当日市況のページ及び翌月の販売見通しページ

<http://www.yokohama-marunaka.co.jp/tono/index.html>

④ 大阪市中央卸売市場

産地別市況を掲載している。

1) ホームページ

<http://www.city.osaka.lg.jp/shijyo/>

2) 市況情報

<http://www.shijou.city.osaka.jp/sikyoku/sikyoku.html>

⑤ 花卉卸売会社の株式会社フラワーオークション

ンジャパン (略称FAJ)、(株)大田花き

有料で会員向けに市況データを提供している。

1) FAJ ホームページ

<http://www.faj.co.jp/>

2) (株)大田花き ホームページ

<http://www.otakaki.co.jp/>

エ 農林水産物輸出入統計

① 農林水産物の輸出入統計は下記の農林水産省ホームページから入手できる。

平成22年5月現在で、輸出入統計（農林水産省）として平成15～21年までの統計情報（輸出入数量、金額や輸出入国上位3位までの数量、金額など）が掲載されている。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>
政府統計（一例：2008年度貿易統計（輸入））

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001052136>

② 財務省貿易統計からも農林水産物の輸出入統計が得られる。

9桁の統計品目番号を「輸出統計品目表」（輸出の場合）か「実行関税率表」（輸入の場合）で調べ、検索ページで検索する。1988年以降の統計を掲載しており、輸出入国の表示数の制限はない。

輸入統計品目表

<http://www.customs.go.jp/tariff/index.htm>

輸出統計品目表

<http://www.customs.go.jp/yusyutu/index.htm>

検索ページ

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=01&P=0>

（4）まとめ

首都圏の市況データは農林関係機関いずれかで集中的に入力するか、各普及センターや農協など関係者で入力を分担し、集計するとデータ量が広がり、より充実した情報となる。情報は経時的な蓄積が重要であり、推奨するものに下記のような情報がある。

①青果物流通情報センターの旬、月毎の市況

②東京都中央卸売市場の月・年市況

③各卸売会社4～5社の日市況と翌月販売見通し

また、出荷団体は現在電算を導入し生産者毎、出荷市場毎の単価が瞬時に出力できるシステムとなっている。これらの情報と、インターネットより入手できる他産地の市況を含んだ情報分析を行えば、生産者への指導がより高度なものとなる。